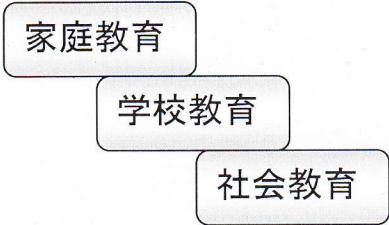


第1章 社会教育の捉え方

社会教育と生涯学習



○教育の3つの場面



年齢や属性の「対象」ではなく、「場面」によって教育を区分してみると、教育には3つの場面があります。



○社会教育の主な特徴

- ・社会状況によって柔軟に学習内容が編成される
- ・多様な人々が対象となる
- ・組織的に営まれる
- ・グループやサークルで学ぶことを通して学びが深まるとともに、活動に参加する人や関わり合う地域・団体等の人々の絆が深まる
- ・学習の成果を生かした社会に関わる組織や団体の活動がある



年齢や発達の段階によって学習課程が定められている学校教育と社会教育とは、大きな違いがあるのですよ。

社会教育は、誰もが主体になれる教育だと分かりました。活動を通して学習者同士のつながりが生まれたり、地域の活性化を図ったりできるものなのですね。



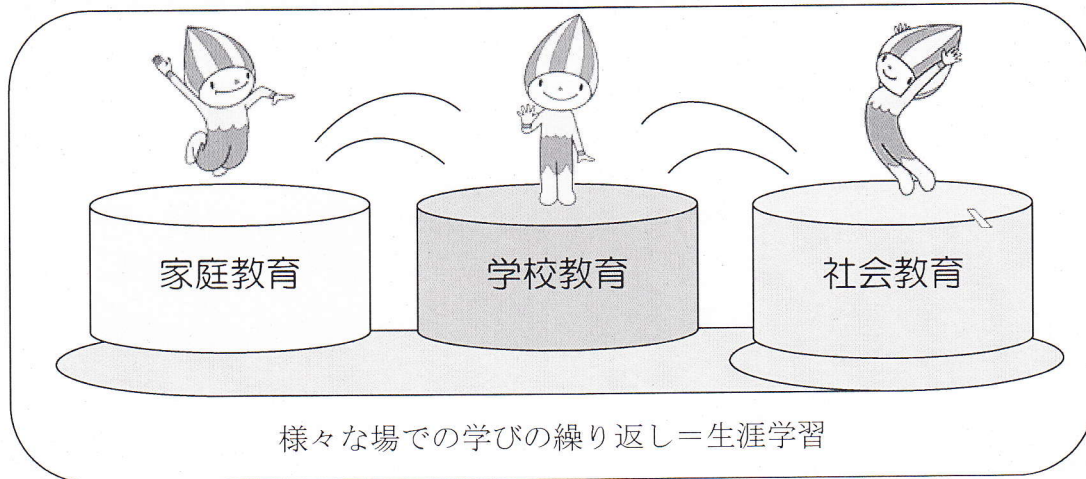
社会教育法（抜粋）

（社会教育の定義）

第二条 この法律で「社会教育」とは、学校教育法に基き、学校の教育課程として行われる教育活動を除き、主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動(体育及びレクリエーションの活動を含む。)をいう。

○社会教育と生涯学習

※生涯学習のイメージ図



一人の人間が一生の間に、家庭教育、学校教育、社会教育という3つの教育の場面で、何度も繰り返し学び続けることで成長し続ける様子を生涯学習と言います。生涯学習は理念であり、社会教育という実態を伴うことで学びの社会が生まれます。

教育基本法（抜粋）

（教育の目的）

第一条 教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。

（生涯学習の理念）

第三条 国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。

（学校教育）

第六条 法律に定める学校は、公の性質を有するものであって、国、地方公共団体及び法律に定める法人のみが、これを設置することができる。

2 前項の学校においては、教育の目標が達成されるよう、教育を受ける者の心身の発達に応じて、体系的な教育が組織的に行われなければならない。この場合において、教育を受ける者が、学校生活を営む上で必要な規律を重んずるとともに、自ら進んで学習に取り組む意欲を高めることを重視して行われなければならない。

（家庭教育）

第十条 父母その他の保護者は、子の教育について第一義的責任を有するものであって、生活のために必要な習慣を身に付けさせるとともに、自立心を育成し、心身の調和のとれた発達を図るよう努めるものとする。

2 国及び地方公共団体は、家庭教育の自主性を尊重しつつ、保護者に対する学習の機会及び情報の提供その他の家庭教育を支援するために必要な施策を講ずるよう努めなければならない。

（社会教育）

第十二条 個人の要望や社会の要請にこたえ、社会において行われる教育は、国及び地方公共団体によって奨励されなければならない。

2 国及び地方公共団体は、図書館、博物館、公民館その他の社会教育施設の設置、学校の施設の利用、学習の機会及び情報の提供その他の適当な方法によって社会教育の振興に努めなければならない。

社会教育委員は 市町村で何を期待されているのですか？



平成23年3月に発生した東日本大震災を契機として、全国的に「家族の絆」・「人とのつながり」の必要性を再認識する傾向にあります。また、地域とのつながりが希薄化する現代社会において、地域社会への主体的な関わりや相互の助け合いを求める意識が高まっています。このような状況の中、人々の絆やこれを形成するコミュニティの重要性を再認識し、地域社会と連携・協力して、主体的にコミュニティづくりに取り組める人材が求められています。次頁のグラフからは、社会教育委員がその一翼を担う存在であり、家庭・地域の教育力向上や地域づくりへの貢献を期待されていることが分かります。

社会教育委員の今日的役割として期待していること（期待されていること）

<平成27年8月1日現在の調査結果（岐阜県）>

<市町村>（期待していること）

- 家庭・地域の教育力向上のために家庭・地域・学校をつなぐパイプの役割
- 社会教育に関する建議や教育委員会の諮問に対する答申
- 行政や施策の運営に対する住民の意向を伝える役割

<社会教育委員>（期待されていると思うこと）

- 家庭・地域の教育力向上のために家庭・地域・学校をつなぐパイプの役割
- まちづくり・地域づくりにつながる積極的な働きかけ
- 行政や施策の運営に対する住民の意向を伝える役割



行政も社会教育委員自身も、「家庭・地域の教育力向上のために家庭・地域・学校をつなぐパイプの役割を果たす」ことを、社会教育委員の今日的役割として重視しています。

また、「社会教育委員制度」は、地域課題解決のために地域社会の声を行政に反映させるという役割もっています。社会教育委員は地域の中での活動を通して地域住民の声を聴き取り、行政や施策の運営に対する意見を述べる大切な役割を期待されています。



市町村や社会教育委員が抱えている

課題は何ですか？



県内には、地域住民との交流を通して互いを思いやり尊重し合う気持ちを高め、家庭・地域の教育力向上のために活動している社会教育委員がいます。その多くは、講座や行事を企画したり地域の行事に積極的に参加したりする中で、住民と心が通ったときなどにやりがいを感じるようです。しかし、社会教育委員としてのやりがいや満足感を感じていない委員がいることも事実です。アンケート結果によると、市町村の社会教育委員のうちの約40%が、「やりがいや満足感を感じない」と答えています。その理由として、「会議の形骸化」や「不明確な活動目標」をあげています。

一方、市町村は、社会教育委員の資質向上と組織的な活動の場の確保、社会教育委員の役割の明確化などが必要だと答えています。

市町村の声

- 充て職が多く名前だけの委員になっている
- 会議が形骸化しており、社会教育委員の意見を施策に反映させる仕組みがない
- 社会教育委員の役割と活動内容が明確にされていない

社会教育委員 の声

- 委嘱されたが、何をすればいいかわからない
- 会議や研修に出席するだけで、それ以上求められていない

地域課題解決のために地域社会の声を行政に反映させるという役割をもっている「社会教育委員制度」ですが、実際には、名前だけの委員、形だけの会議など、制度が十分に活用されていない実態があるのですね。とても残念に思います。

そもそも社会教育委員の役割とは何ですか？また、社会教育委員の必要性はどこにあるのですか？制度をよりよく活用するために、基本的なことを知りたいと思います。

